## 第３回　4/21　「音楽産業進化論　〜世紀の転換・技術の発達〜」

### 丸山 茂雄（まるやま・しげお）先生　　株式会社２４７Ｍｕｓｉｃ 取締役会長

1941 年生まれ。
1966 年、早稲田大学商学部卒業。
1966 年、株式会社読売広告社入社。
1968 年、CBS ソニーレコード入社。（現 ソニー・ミュージックエンタテインメント）
1978 年、EPIC ソニーレコード設立、企画制作２部次長。
1993 年、ソニー・コンピュータエンタテインメント設立、代表取締役副社長。
1998 年、ソニー・ミュージックエンタテインメント代表取締役社長。
2003 年、株式会社２４７Ｍｕｓｉｃ設立、代表取締役。
2008 年、株式会社２４７Ｍｕｓｉｃ取締役会長。

**《講義概要》**

株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの代表取締役社長、株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの取締役会長を歴任し、音楽業界を牽引し続ける株式会社２４７Music 取締役会長の丸山茂雄氏が、音楽産業の現状について講義を行った。

講義では、自身の経歴の説明の後、キーワードをあげながら日本の音楽産業に関する幅広い見解を提示。その中で、「音楽の歴史は音量の歴史であり、技術の歴史である」とし、技術の進歩に伴い変化してきた音楽の歴史を多方面から見直し、新たな視点で今後の音楽産業の展開を考えることの重要性を伝えた。同時に、技術が人の求めるものを超えてしまう例として自らが初期の開発に携わったプレイステーションについて話し、コンテンツ産業の今後の展望のヒントとした。

さらに、音楽著作権の問題については、現実的な視点から、「立場を固定せずに物事を見ていく」ことや「原理原則と現実を整理する」ことが重要になると説明。

音楽産業のみではなく、現代を生きる上で必要な考え方を示す講義となった。

## 《受講生の感想》

●時代の流れによって一つの「音楽」というものが様々に形を変えて進んできたことを知り、日常生活の中で多くの場に浸透している身近な存在に、とても深い歴史のようなものを感じました。しかし、今世の中がコンピューターに頼り過ぎているあまりに、新しい「音楽」を生み出すことが妨げられていることは、歴史を止めることだし、とても残念なことだと思います。人間の大きな文化である「音楽」の成長を止めることなく、機械に頼り過ぎないで進化し続けるように、何か新しい策を考える必要があるのではないかと思いました。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

●先生の話を聞いて、音楽業界も新しいモノを見つけられていないという現状を改めて見て、日本の経済技術が音楽業界に与えている影響、フロンティアを見つけなければ次の成長は生まれないということが理解できた。　立命館大学・産業社会学部・2 回生

●性能がよければ売れるというわけではないとか、技術が止まってしまって新しいジャンルのものが生まれにくい環境にあるという現状を理解しました。これを踏まえた上で、フロンティアが無いことを新しい音楽が生まれない理由とするのではなく、この現状を上手く利用した全く新しい音楽産業のスタイルを築き直す時期に来ているのかなとも思いました。

立命館大学・映像学部・3 回生

●音楽の歴史が音量、技術の歴史であること、何故新しい音楽が出てこないか、などなるほどと思う事が多く非常に参考になったと思います。社会で何かを作り出す上で、必要な視点、考え、構え方がわかった気がするので、これからの進路を考える時に参考にしたいと思います。

立命館大学・産業社会学部・3 回生

●私は法学部で著作権法について学んだり、先週のこの講義を受けて、著作権を必ず守らなければならないと思っていた。たしかにその考えは今も変わらないが、丸山先生の、著作権のことをとやかく言いすぎるとそれが普及の観点からは決して良いことばかりではない、という考えを聞いて、そういう考えもあるなと思った。先生が言われるように、原理原則と現実に起こっていることの両方のバランスを取って考えることのできる人間に私もなっていきたいと思いました。　立命館大学・法学部・4 回生

●これから市場でものを売って経済を活性化させるには、使っている人の能力や気持ち、先生のおっしゃられていた「このへんでいいんじゃない？」を見極めることが大切なのだと自分なりに考えました。今ある概念に固執するのではなく、日々興味関心をいろいろ持って先を見こすことが重要だと気付きました。　京都産業大学・経営学部・4 回生